

「ごろごろの森」一年を振り返って

施設長

石井 知子

半年間の準備期間を経て、ごろごろの森が開設して一年三カ月がたった。

東村山市で子育てしている市民により添った子育て支援の場がつくれているのだろうか。

そんな不安が胸をよぎっていたときに、10ヶ月の男の子をもつ祖母が笑顔で話しかけてきた。

共働きしている娘夫婦の子の世話をした小平から通ってきている。自分は腰が悪いのだけど孫はバギーが嫌いで乗ってくれなくて困っていた。ところがごろごろの森にいくよという子どもは喜んでバギーに乗ってくれるんですよ。ここにきた日はよく遊んで昼

寝をしてくれるので助かる。ここがあつて本当によかった。

産まれて二カ月にならない第二子を連れて遊びにくる親子がいる。赤ちゃんがベットで寝ている間だけでも上の子の相手を思いきりしてあげたいと母親は思う。

子育ての大変なとき職員がちょっとしたことを手助けてきて役にたてればうれしいけど信頼関係がないと簡単に頼んではくれない。夫婦共に実家が遠い場合は頼れる人がいなく友人に支えられて子育てをするのを見るけれどごろごろの森が存在感のある居場所になる

配慮を着実にやっていきたい。

日によって、目的によって、利用者の方々のニーズも異なるので、支援の難しさはあるけど、どの人たちにも答えていける力量を職員がもてるようになることが課題になっている。

センターの目的である「すべての子どもと大人がいっしょに育つまち（子育て・親育ち・地域育ち）」を具現化していくための取り組みの成果を見極めるのには、もう少し時間がかかると思う。

事業については、定期プログラム（体重、身長測定、赤ちゃんタイム、センター長の話、おはなし会、誕生会、ラッタッタタイム、ひまわり会、など）を毎月一回しているが、定着してきている。

小・中・大学生とつながる森

(1)ジュニアサポーター要請講座が、東村山市内の小学5・6年生15名・中学生9名が参加して夏休みに行われた。

プログラムは5回左記の内容であった。

I. ころころの森と子育て支援

II. 赤ちゃんと命（助産師坂本美雪氏）

III. 赤ちゃんの発達とあそびについて

（白梅学園佐々加代子氏）

IV. 子育て支援の実践を学ぶ

V. 子育て支援サポーターとして活躍

子どもたちは汗をかきながら講座の始まる時間より30分も早くきて、熱心に話をきいていた。赤ちゃんのだき方、遊び方を学び広場にきている親子とふれあった。

小さい子と遊ぶのは簡単に考えていたんだけど実際にはむずかしい。一歳五カ月の人みしりをする子と接し、固くなっている子とおままごとをしながら仲良くできた。帰っていくときに「バイバーイー」と元気な挨拶をしてくれたことが、とっても心に残り喜こんだと感想文にあった。

子どもの面倒をみるって大変と思った子はママが「大変だけど可愛いから頑張れる」というので素直にすごいと感動をしている。

ボランティア経験の場の提供、地域での異年齢交流、次世代に命の大切さを伝えるなどを目的にして行われた講座は大きな手ごたえがあった。

そして今は土曜日になるとボランティアにくる子たちがいてくれる。誕生会の手伝いをお願いして手遊びに参加してもらったりしている。緊張しながらも終ったあとの表情は、達成感にいきいきと輝いている。

(2)小さい子と遊び世話をする目標をもって、小平第二中の女子2名が職場体験学習に11月の5日間きてすご

していった。

体験を通して、印象に残ったことは、小さい子たちと遊んだこと。感じたことは小さい子は強いということ。転んだりしたらすぐに泣いてしまいうイメージを持ってはいたけど、そんなことはなかった。小さい子はおもしろいことなら何百回やってもあきないことが分かった。

ママたちが「ありがとう」「がんばって」と声をかけてくれた。「赤ちゃんを産んでから保育士になればよかったなあ」と思ったというのをきいて、自分達は保育士になりたいと思っているのでうれしかった。

「私が大人になったら又ころころの森へ来てみたい」という。結婚してママになって来る姿が浮び本当にきてくれるような気がした。

(3)夏休みボランティア活動に白梅学園大学と短期大学の有志が活躍してくれる。

(イ)「めっきらもつきらどおんどん」というお話の大型ペープサートを作成して持ってきてくれて、10人の学生が演じた。

大きな画面いっぱい描かれた迫力のある絵といろいろなお化けが出てくる怖いけど、おもしろくて、見ている子どもたちも夢中になり大きな声をはりあげて、おまじないを唱えていた。

学生たちは、準備日があまりなく忙しいなかでの活

動だったけど楽しみながら出来たと感想をきかせてくれた。

(ロ)白梅学園にある積木を沢山運んでくれて、積木を高く積んだり並べたり。ドミノを作ってはくずして遊ぶ。

積木を運ぶのが大変であったと思うが、学生と一緒に積木で遊べる機会をもて親子には大変喜んでもらい好評であった。

学生は7人、院生が1人、滝口先生の9人の目があつて子どもは自由に遊んでいた。

時間帯によっては3〜4歳の子がいたり、1〜2歳だけになったり、子どもが眠くなって帰ったりと様々な動きがあり、学生は改めて広場の特徴を認識したようである。

(ハ)新聞紙を使って工作する場。新聞紙をさいて作った紙プールの場。お米や小豆をヤクルトの空に入れて音の出る楽器を作る場。

企画立案から当日までの期間が短く、打ち合せや準備が半端になってしまった。対象年齢の設定を低く見積もりすぎたため遊びが単調だった。広い視野を持っていた学生が少なかつたという感想をきかせてもらった。

紙プールで嬉々と子どもと学生が新聞紙の紙ぶぶきをぶつけあう姿は、楽しそうで見ている私も笑顔に

なっていた。

真剣に子どもと遊んでくれる学生の存在は素晴らしい。

学生が主体的に関わって、親子を実感する場として常に参加できるようにしていけることも課題である。

パパたち

子育て支援活動室はサークルや子育て支援活動団体が利用できる部屋。この部屋を借りて平日パパママの会を主催した秋津町の益子茂子さんをお願いして、感想文をいただく。

企画したきっかけは、あるパパがお子さんに対して接し方が分からなくて、ママが心配していました。

でも、サービス業でなかなか土曜日休みではないので、子育てのイベントに連れて行くことが出来ませんでした。

そこで、平日にお休みのパパを集めて、交流会をしたらいいのではないかと思いました。意外とサービス業のパパは多くて、シフト制で平日お休みの方が多かったです。

今回は開催日時を決めてからの時間が一ヶ月未満だったので、シフトが決まってしまっているパパが多くて、参加者が少なかったです。でも、4組の家族が

集まることができました。

内容はパパ同士で交流の時間を持ちました。サイコロトークを用意したので、意識して子育ての話が出来る工夫をしてよかったです。

普通にパパ4人集まっても会話が難しそうでしたので。その後に子どもとそれぞれころの森で遊んでもらいました。

初めて来たパパも居て様子を見てもらったのは良かったようです。

その後、お食事会も持ちました。それでもパパ同士で趣味の話に盛り上がりたり、子育ての話が出来ました。

パパは異業種の方と話が出来て、新鮮だったそうです。ママは気分転換が出来て良かったそうです。

パパは子育ての話ができたのが良かったそうです。ただ、企画したきっかけになったパパはやはり、子育てに関心が薄く、今回の企画もちょっと辛かったようです。

話が合うパパが居ればもっと楽しめたかとも思います。ころころの森のイベントに積極的に来てくれるパパは子育てに関心が多いと改めて感じました。でも企画したら参加したいと思っっているパパも居たので、ころころの森で企画があるといいなあと思います。

(終り)

土曜日はパパの来館がめだち、多い時は32人という日もあった。

ママがお掃除をしている間とか、美容院に行くためとか理由はいろいろだけど、家庭の平和のためにパパは協力している。

子どもにとってもママとひと味違うおもしろいこと、乱暴なことを許すパパと遊べることは大事である。

ダンボールのすべり台は子どもたちが大好きな遊具の一つである。白梅学園の花原先生の指導で七月に七人のパパが集合して、新しいすべり台作りに挑戦してくれて出来る上がる。

図面をみながら真剣に、丁寧に一生懸命ダンボールをカッターで切る。ダンボールをつなぎ合わせるときは声をかけあい手を貸し合って協力しながら完成。「力を合わせるってすごい」達成感と笑顔の交流はパパ達ならではの個性がみられた。

毎日多くの子どもたちがそのすべり台で遊んでいる。すべり台にはパパたちのサインが印されている。

「パパとなし狩りに行こう」の企画は多摩湖町の浅見園に行った。55人の大勢になり、パパやママ、おじいちゃん、おばあちゃんの参加で、とてもにぎやかになった。

近くに住んでいてもなかなか行くことができないと

いうこともあって梨狩りは喜ばれた。

多摩湖町イラストマップを配ったので、家族でおいしいうどん屋に行ったり、北山公園に行ってみたりなど、解散後もおの楽しい時間になったようだ。

研修・研究・各種セミナー

子育てしやすいまちづくりというものを検討し、子育て支援関係者や子育てに関心のある利用者等を対象として、子育て支援者向け研修や子育て支援ボランティア育成等の各種講座を行い、子育てしやすいまちづくりを支える人材の育成のために次のことをしてきた。

(1)「子育て支援サポーター養成講座」の初級編を6月7月に3回開催。白梅学園の佐久間先生・福丸先生・小松先生が講師。多方面から延べ96人の参加があり関心は高かった。

(2)「おもちゃボランティア立ち上げ講座」を9月に11名の参加で開催。白梅保育園の大山園長先生を講師にお願いして、ころころの森の手作りおもちゃの制作やメンテナンスの協力してくれる方の人材育成。活動に結びついた。

(3)ころころの森開所一周年記念事業。汐見センター長監修で10月に3回「子育て支援者スキルアップ研修

会」を開催。市内の子育て支援に実際に関わっている方が延べ97人参加した。汐見和恵先生・小松先生・永田先生の講師の話をきいて明日への希望、課題をみつめることができた。

(4)「世代間交流コーディネーター養成講座」が11月～12月に5回開催。子育て関係者だけでなく、障害者施設や学校の職員、地域のボランティア活動をされている方、福祉協力員、学生など「世代交流」という言葉にふさわしく多方面から48名の参加があった。

この講座をきっかけに東村山での世代間交流がより一層広がりが根がはって、地域の人々全体の支えあいができるようになることを、ころころの森もめざしていききたい。
